



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.303

2022/7/01

今月の一枚

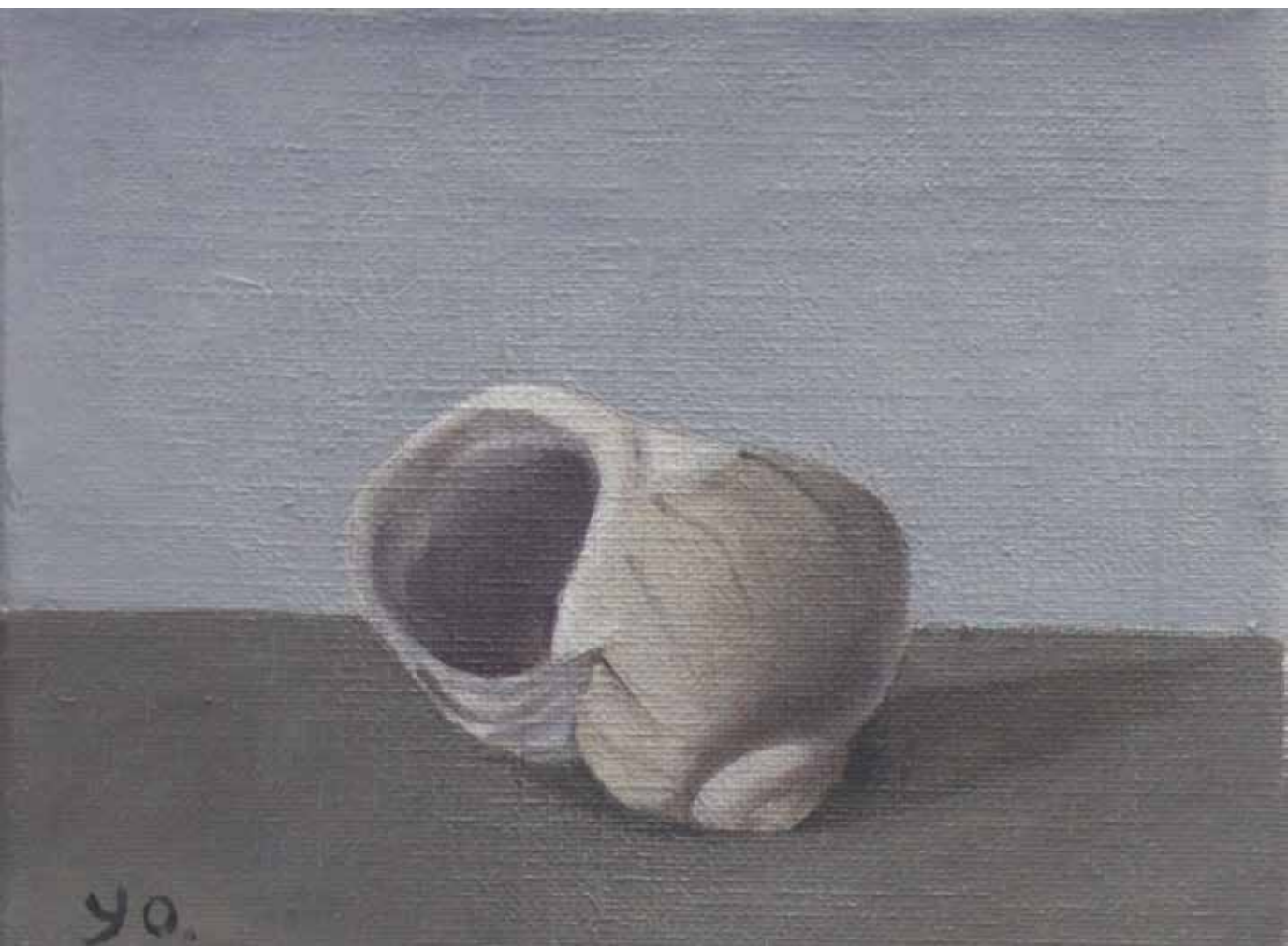
今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 不朽の名作たち

02. 哺乳類標本



今月の一枚



Photo

「貝がら」

表紙作品／横森政明・文／松田真莉子

美幌博物館が開館した際、465点もの作品を寄贈してくださった美幌町在住の画家・横森政明さん。

油彩のほか様々な画材や技法に挑戦し、描く対象も家や花、人物や風景など多岐にわたります。また、「貝がら」を含めた静物も多く描いています。

本作で印象的なのは、くすんだ白やグレーといった同系色で構成された画面に締まりを与えている、濃い影です。この影が、薄暗い空間にぽつんと置かれた貝がらの、さみしげな雰囲気を実際立たせています。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろ町4公園の草花図鑑」～10月23日(日)

ロビー展「すごい標本!すごい資料!」7月2日(土)～10月5日(水)

「夏だ!昆虫グッズ!無料レンタル」～8月31日(水)

道民の日 無料開館 7月17日(日)

博物館講座(自然編)「シマフクロウ」7月23日(土)

プチ工房「ステンドうちわ」7月29日(金),30日(土)

Information. 参加者募集

博物館講座(自然編)「シマフクロウ」

- 7/23(土)16:00-17:30 ●美幌町民会館 小ホール ●無料 ●竹中 健氏(シマフクロウ環境研究会)
- 美幌博物館へ電話申込み(-7/22)。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学3年生以下は保護者の同伴が必要,定員50名で締切。

プチ工房「ステンドうちわ」

- 7/29(金),30(土)①10:00開始,②11:00開始,③14:00開始,④15:00開始所要時間30分~,作品ができ次第終了 ●美幌博物館1階講座室 ●参加費300円,マスク ●町田善康(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-7/28)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

プチ工房「ミニいかだをつくろう!」

- 8/5(金),6(土)①10:00開始,②13:00開始,③14:30開始,所要時間60分~,作品ができ次第終了 ●美幌博物館1階講座室 ●参加費300円,マスク ●松田真莉子(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-8/4)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため,発熱がある,あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは,内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により,一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上,ご参加ください。

【駐車場のご案内】

7/1(金)～10/31(月)は,駐車場整備工事のため正面駐車場はご利用できません。階段下の大駐車場をご利用ください。

今月の休館日

4日, 11日
19日, 25日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

不朽の 名作たち

写真・文／松田真莉子



太陽が眩しかったから—アルベール・カミュ著『異邦人』(1942年出版)の主人公ムルソーは、殺人を犯した理由を裁判官に問われ、こう答えます。このような漠然とした理解し難い発言を繰り返すムルソーは、当然のごとく非難され、死刑を宣告されます。本書が発表された当時、カミュの文学は、ナチス・ドイツ占領下にあったフランスの人々の空虚な心境を代弁した作品として脚光を浴びました。そしてカミュは、激動の時代を象徴する思想家として名を残したのです。

それから約70年という月日が経ったコロナ禍において、感染症の広がる社会を舞台にしたカミュの『ペスト』(1947年出版)が再びベストセラーとなりました。世の中や人間の暗い側面を浮かび上がらせたカミュの小説が、長い時を超えて読み継がれているのは、そこに普遍的な心理や社会状況が表現

されているからではないでしょうか。

7月2日から開催のロビー展で紹介する《カンヌ》(1960年制作)の作者、ベルナール・リュフェもまた、カミュと同時代に生きた画家です。リュフェの作品は、痛々しくも感じられる鋭い描線の特徴としていて、第二次世界大戦直後の人々の虚無感や不安を映し出していると、高く評価されました。時代が平和になるとともにリュフェの存在は忘れられてゆきましたが、近年、大規模な回顧展が開催されるなど関心が集まっています。その理由はやはり、豊かになっても悲惨な出来事の多い現代を生きる私たちと共鳴するものが、彼の絵の中に描かれているためと言えるでしょう。

《カンヌ》は、華やかな高級リゾート地のビーチを描いたものですが、黒く硬質な線が不穏な雰囲気醸し出しています。

哺乳類 標本

写真・文／町田善康



これまで、美幌博物館には、脊椎動物（背骨がある生き物）を担当した学芸員が、私も含めて3名います。1人目は、宇野裕之学芸員。エゾシカを専門とし、当時、全くわかっていなかった生態の解明に取り組みました。その功績から、エゾシカ専門の研究員として道職員に転身。現在は、東京農工大学の特任教授として教鞭をふるっています。もう1人は、山鹿百合子学芸員。コウモリ類の調査を行い、美幌高等学校に暮らすキタクビワコウモリの繁殖場所の保全に尽力しました。その結果、現在も数百頭のキタクビワコウモリが暮らす場所になっています。

この偉大なる2名の学芸員が集めた数々の脊椎動物標本は、美幌博物館の宝です。なかでも哺乳類に関する標本は、2人が専門としていただけに、数多くの収蔵がありました。

しかし、数が多くなるとそれだけ整理が大変になります。私が着任して十数年。毎年、片付けようと思いながらも見て見ぬふりをしてきた哺乳類の標本たちを、ついに整理することにしました。結果、出るわ出るわ、エゾシカだけでも168点。コウモリ類は146点。すべての哺乳動物を合わせると総計587点となりました。この中でも、0歳から老齢の個体までそろったエゾシカの頭骨や、コウモリ類の剥製の数々は、これら動物を専門としていた2人ならではの資料だと、感心するばかりです。私も負けるものかと、哺乳類の標本を頑張っって収集しています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



森や川に行くたびに、よく拾い物をしてきます。過日、拾ったオジロワシの死体からは、高病原性鳥インフルエンザの陽性反応が検出されました。美幌町は感染警戒地区だったので死体取得は躊躇（ちゅうちょ）しましたが、さんざん悩んで持ちかえたのに、まさかの結果でショックを受けました。（町田）